



んんっ……に……は？

（あれ……？私はなにを？フリーレン様たちが用事があるといっ
めずらしく一人で食事をとって……
そうだ、その食事のとき急激に眠気に襲われて……）

グ
4
ユ

グ
4
ユ
……

んんっ……は……

んんっ……は……





やあ!!?

ググ

ググ

ググ

ググ

「な、なんですか「れっ?」なんて格好……!んん、動け、ない!」

ギョ
4ツ

くっ!!

んん!!

グ
4ユ

ギ
4ツ

ギ
4ツ





うっ...

グッ

グッ

グッ



「あら、もう覚醒したの？かなりの量の薬を使ったのだけど」

「だれ？！……ま、魔族……！」

「ふむ、薬の調整をミスったかしら？まあ拘束は済んでいるから問題ないか。」

「これはあなたが？……あの店でなにかしましたね！私をどうするつもりですか？！」

「……」の状態でも気丈なのね。さすがは七崩賢を倒した一行の一人というところかしら？」

「くっ！あの魔族の復讐ですか？」

「ん？我々魔族にそんな情はないよ。私なんて魔王が討たれるってときにさえ引きこもって研究をしていたから。」

グ
4

ん

「ではいったいなにが目的で、ひゃん!!なにを?!いやっ!離れて!」

「私の研究の二環よ。あなたの訪れた町は、研究材料の採取場所のひとつで...そうね、たまには誰かに語るのもまた一興かしら?」

「げ、研究?それが、これだと、んん、や、めなさい!んあ!いや、離れてっ!なん、のつもりですか!?!ひっ!今度は胸につ?!いやああ!」

「私は魔族といっても個体としてとても弱くてね。魔力も少なく、能力と言えば普通の人間でも倒せるような弱い魔物を使役するだけ。私は生き残るために、個体の強さを磨くより、人間の軍隊のように集団の強さに目を付けた。」

ギョッ

ひっ!?

ピンッ

んん!!

ギョッ

ギョッ

ギョッ



んあっ!!

んあっ!!

アッ!!

アッ!!

アッ!!

アッ!!

アッ!!

アッ!!



んっ♡

ムムム

ゴクゴク

んあっ...♡

んあっ♡

...ゴク

んあっ♡

ゴクゴク

ムムム

「くっ、たしかに」この魔族と魔物からはたいした魔力を感じない。
万全なら私一人でも討伐できたのに……！」

「使役する魔物は集団を形成するにも数が集まらなかった。
生殖能力が低くてね。そこで、他の生物を苗床に増殖させることは
できないかと考えたわけ。すると、うってつけの生き物がいたのよ」

「ふう、んん、ま、まさかっ……！」

「もともと生殖能力があり、ある程度頑丈で、魔物育成に必要な
魔力も有している……そう、貴方のような女の魔法使いというわけ。」

「いやあ！そんな、こと、絶対にさせ、ふああ、あん！」

「どうも母体が抵抗していたり、気が触れていたりすると良い個体が
生まれないのよ。そこで、自発的に性交させるため、魔物により快樂を与え、
ツガイ……夫婦関係を構築することにしたの。」

今やってることはその前段階、まさに前戯というわけ」

んんっ……♡

ビュッ

グッ

グッ♡





びびっ! 何っ!?

おっ! 何っ!...

グワッ

グワッ

グワッ

グワッ

グワッ

「ま、魔物と、夫婦……んんっ、そんな、あんなこと、絶対にいやですー!」

「だけど身体は順応してきているわね。かなりの愛液があふれてきている。」

「これ、は、んん、ただの生理現象で、あん、ふう、ふう、こんな触手気持ち、悪いですー!」

「だが」いつは準備が整ったと感じているわよ。次の段階に移るみたいね。」

「ひ、な、なんですかこれー?」

みっけ、何っけ。

いんせ。

✂





ううっ...

ギョッ

いやあ...

ニャ...

グッ...

んっ...

んっ

んっ

んっ

「ひっーや、はな、れてー！気持ち悪いー！いやあー！これを、外しなさいっー！」

「この魔物は、人間と同じように夫婦円満だと繁殖しやすい傾向もあるの。これから貴方はこれのツガイとして、ありとあらゆる性知識、奉仕のやり方を身に付け、尽くして貰うわ。」

ニヤ

その張り付いてる奴は、貴女にそれを教えてくれる補助具のようなものね」

ググッ…

ギョッ

ううっ…

ググッ

いやあ…

ギョッ



「だれがそんな」と、むぐっっっ！っっ！
んんっ、むぐっっ！っ！

「ふむ、口から舐めに入ったか。張り付いている奴の
特性はすぐにわかるわ。がんばりなさい。」

ギョッ

ピン

カユ♡

カユ♡

ニヤッ

むぐっっっ！

グググ

ピン

ググ



「んぐっ、んん、むぐっ……！」
（何？張り付いた触手が動き出した！？）

「そいつは貴女が触手に性的な奉仕を施すと、貴女にも快楽を
あたえようとするの。仲の良い夫婦は、幸福を分け合っのでしょっ？
貴女も遠慮せずに愛し合ってちょうだい。」

「んんんっ！むぐっ……！」

（い、いやです。こんな魔物と愛し合っなんてっ！

いやあ、これ外してくださいっ……！）

ギョ

アッ

アッ
♡
♡

んぐっ……？

グッ

グッ

むぐっ……！！

グッ
アッ



♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡





むぐぐ!!

んん!!

きゅ

ぐぐ

ぐぐ

きゅ

ぐぐ

ぐぐ

「んぐ……んん……」

（この脱力感、なんともいえない開放感、そして多幸感……これがオーガズム……なんてこと、私、こんな魔物相手に……！）

「ふむ、絶頂したようね。子宮が降りて子作りの準備ができたんじゃない？ほら、本命がきたわよ。」

「んん……？んぐっ……むぐっうう……んんんっ……！」

（ひっ！まさかその形、うそ、本当に……いや、それだけは、大切な、人と……だれか、助け……）

むぐっうう！！

んんん！！

ギョ

ギョ

グッ
ギョ

ギョ



はっはっはっ

はっはっはっ

んんんん

はっはっはっ

はっはっはっ

はっはっはっ

「んぐっ！んっ！」
（お願いします！こんな触手に犯されたくない！
ぬいて、ください！本当にいやなの！）

「これは全力であなたを墮とすつもりだよ……
ほらきたわよ。」

（いやあ、これ以上にをするつもりなんですか？
もうやめて……）

ギョッ

グッ

グッ

んっ！！

んっ！！

ギョッ





バ
ツ

ツ
ツ

ツ
ツ

ツ
ツ

ツ
ツ

ツ
ツ

ツ
ツ

ツ
ツ

ツ
ツ

ツ
ツ

ツ
ツ



んん!!

ぐわっ!!

ぐわっ

ぐわっ

ぐわっ
...

ぐわっ

ぐわっ

ぐわっ

ぐわっ

ぐわっ

「むぐっ！んんっ！んぐうっ！！」

（な、何が起きたの！？急に視界が、くさっ…くさいです！
ひどいにおい！頭がくらくらします！）

「その吐き出す空気には大量の媚薬成分が含まれているの。
密閉した空間で、口も塞がれた状態…

鼻から吸えばどうなるでしょう？

さあ、あなたの夫が本気の性交をみせてくれるわ。」

（か、身体が燃えるみたいアツく！それに感覚がすくく研ぎ澄まされて
アソコに挿入されたペニスの形までわかってしまいます！
だめ、こんな状態で犯されたら……！）

んん！！

むぐう！！

ギョ

ギョ

ギョ

ギョ

ニクッ



フズ

フズ

フズ

フズ

フズ

フズ

フズ

フズ

フズ

フズ



フス

もぎ...
♡

ギッ

ゴッ

フス

ん...
♡

ゴッ...
...

ギッ

グッ

グッ
グッ

グッ
♡

グッ...
...

「んんっ……んぐっっ……」

（精液でおなか、の中……タプタプに、子宮も
いっぱいになって、しまいましたあ……」のままじゃ
本当に、魔物を孕んで、しまいます……。
お腹に力を……す……でも、吐き出さないとお……）

ドロ……

ビクッ♡

ギョッ

ビクッ♡

んん……♡

フスッ

んん……

ビクッ♡

ギョッ

フスッ



「貴方は本当に優秀な実験体ね。そんな状態になってまでまだ抵抗するなんて。まあ残念だけど、そういう抵抗も何度観測して対策済みなのよ。」

（ああ、そんな……。アソコに張り付いた魔物が膣内の精液をださないように閉じてしまいました……。）

「さて、研究発表というたまの余興も楽しんだしほかの苗床も観測しに行きましょうか。こんなとき人間はなんていいのだったかしら……。？」

そうそう、”あとはお若いお二人で”

（子宮もお尻も口も、うぐっ、全部精液に漬けられて、しまいました……。こんな状態なのに、身体が疼いて、触手のおちんちんが忘れられません……。うう、ぐす、フリーレン様、私、このままでは、魔物のツガイに……。苗床にされてしまいます……。魔物なんて、産みたくない……。）

ぐすっ、フリーレン、様……。助けて、ください……。助けて……。）

むぐっ♡

びっく♡

ギョ

グッ

びっく♡

フス

フスー



この目を境に、魔族に囚われた私は、魔法の実験動物として飼われる事になりました。

使役する魔物の苗床となり、繁殖させるのが私に与えられた役目……。魔族は、その役割をツガイや夫婦と言いましたが、そのような生易しい関係ではありません。一方的な従属関係……。性奴隷と言うのが正しいでしょう。

肉繭に拘束された私は、魔族の望む性奴隷になるべく調教をほどこされました……

「んっ、むぐ、じゅる、んんっ、んぐっ！んんんっ……！」

（ああ、おっぱいでおちん○んをほそむ、こんな性行為があるなんて……しかも「んな」とをさせられているのにおま○に張りついた魔物のせいで気持ちよくなってしまいます……！）



ビュッ

ムムム

んんっ♡

んんっ♡

ググッ♡

ムム♡

ググッ♡

ググッ♡

ビュッ

ググッ

んんっ♡

んんっ♡

ああ、イってしまった……。口にだされた精液も
たくさん飲んでしまいました。

身体が、熱くなる……。わたしのおま○こが、おち○ぽ
を求めてしまっています……

きゅんのおとすぐ……。……



んんっ……♡

んんっ……♡

んんっ……♡

んんっ……♡

んんっ……♡

んんっ……♡

んんっ……♡

んんっ……♡

んんっ……♡

んんっ……♡



ギョ
4

ギョ
ギョ

ギョ
ギョ

ギョ
ギョ

ギョ
ギョ

ギョ
ギョ

ギョ
ギョ

ギョ
ギョ





んんん...

ぐわん

んんん...

ぽん...

ぽん...

ぐわん

ぐわん...

ぐわん

ぐわん

ぐわん

妊娠におびえる私に魔族は言います。魔法使いはその魔力で体内の異物に抵抗するためか着床率は低いのだと。常に子宮を精液で満たしているのはその抵抗力を奪うためだが、今の私は、今だその兆しが見えないそうです。

私は少し安堵しました。もしかしたら、魔物を孕むまでにフリーレン様たちが助けてくれるかもしれない……。そんな期待がもてたのです。

しかし、魔族はそんな期待をあざ笑うかのようにさらなる絶望を突きつけてきました……

私の魔力抵抗をそぎ落とすための
調教が始まりました

「んぶっ、ふすう、ふすう、ぶぐう……」

（臭い……なんてにおい……
それにすごく苦しい。うまく息ができない……
この気持ちの悪い魔物はなんなの？）

どこから現われた魔物が、
私の口にぴったりと張り付いてきたのです。

ギィ

ビィ
ブッ

んんっ……
プスー

ぶぐう……

せびゅ……

グァ
ト……

ギィ





「んぐっ、んんっ！、ぶぐう！むぐうううっ！」

(いやああ！なに！？うえ、まず、くさい！
外れてっ！いやあ、吐き出せない！！)

触手が口の中にもぐり込み、大量に体液をはきだし
はじめました。

その体液は精液を濃縮したような味、粘性……
とても人が口にしているものではありません。

しかし吐き出そうにも口に張りついた魔物がそれを

許しませんでした。そのうえ、こんなものを飲まされている間も

触手パンツにおま〇こを刺激され快楽を晒され続けました……

ギクッ

んぐっ！！
プスー

んんっ！！

ギクッ

んぐっ♡

んぐっ……

んぐっ

ああ、お腹が苦しい……精液の固まりでお腹が
いっぱい……それだけじゃない……私、こんなもの
を飲まされても、絶頂してしまった。
ますます魔物の奴隷へと変えられていく……

フリーレン様、お願いします……早く助けてください……
このままだと、私はもう……

ギィ

ビィ
グィ

んんっ……♡

プスー

んんっ……♡

フッ

んんっ……♡

グィ
グィ

グィ
グィ

んんっ……♡

んんっ……♡



私の助けを求め声もすべて肉の繭に吸われ、容赦なく調教は続きました。

来る日も来る日も、性的奉仕を強要され、犯され、子宮とお腹が満タンになるまで精液を注ぎ込まれる、その繰り返しです。

やがて私も快楽を抵抗無く受け入れるようになっていました……
そして……

「お尻、ですか？ですがそこは排泄するところ
快樂を得られるところではありませんよ？」

私の体をすべて魔物のモノへと変えるため、
最後の調教が始まりました。

お尻、いえ、けつま〇こでも快樂を得られるように
開発するということです。

私は不安を覚える一方で、どんな快樂を与えてもらえるのか、
期待してしまっていたのでした……。

ギキッ

あ……♡

ツム

ズッ

ツム

グム……

んん……♡

ズッ





ぐちゃぐちゃ

びしょ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

びしょ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ...

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

「ぎゅんん！あん、これ、すーいー！」

お尻に触手が挿入された瞬間、身体中に衝撃が走りまわりました。
おま○こを犯されるのともまた違う快楽を感じたのです。

「すーっ、ふああ、こんな、気持ちいいこと、フリーレン様は
教えてくれなかった……んん、あん！」

ビュッ

グワッ

ギョッ

あんっ♡

グワッ

ビュッ

んんっ♡

ふわっ♡

ググッ♡

ググッ♡

グ……





んんん

んんん...

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん...

んんん...

んんん

んんん

んんん

んんん

けつまのこの快楽に酔っていると、触手が顔の前に
近寄ってきました。

「あん、ふあ、あぐ、あ、すみま、せん、わたしだけ
ご奉仕、させていただけます。

フェルンの口まのこ、お楽しみください…あむ」

私は、すぐ魔物の意図を汲み取りフェラチオを始めます。

こうしていると快楽をご主人様と共有することだ

喜びを感じる牝奴隷に堕とされたのだと感じました…。



けつま○こ、すごく気持ちよかったです……
今日はもう終わり……

ああ、でもま○こ責めはなし、なんですね……
おま○こをしてもらえないことにごんなにも
切なさを感じるなんて……

フリーレン様、ごめんなさい。わたしはもう、
この魔物の牝奴隷になりました……



んんっ……♡

んんっ……♡

ムリッ

ビュッ

グァッ♡

トッ……

グァッ♡

グァッ……

グァッ♡

グァッ♡

牝奴隷に堕ちたことを受け入れた私は、もう快樂を受けるだけでなく、自分から求めるようになりました。

自らおち○ぽを啜え、触手に犯してもらおう関係です。

拘束は解いてもえなかつたので、懸命に口を使いました。

そのとき、私の胸をオナホのように使われることも嬉しかったです。

ご主人様は、私の懸命さにちゃんと答えてくれる、

まるでフリーレン様のようでした……



んんん...

ムムム

グググ

ムムム

グググ

グググ

グググ

ムムム

んんん...

おんんん...

グググ

グググ



ギィ
ギィ

カ
カ

カ
カ
カ

▽

ト
ト
ト

ゴ
ゴ
ゴ

カ
カ
カ

ギィ
ギィ

ん
ん
ん

ん
ん
ん

ん
ん
ん

ギィ
ギィ

ギィ



んんん...♡

ギィ
ギィ

ゴ
ゴ

グ
グ...
グ

んんん...♡

ギィ
ギィ

ギィ
ギィ

ゴ
ゴ

グ
グ...
グ

グ
グ...
グ

毎日、全身が精液まみれになるくらい、ご主人様と愛し合いました。
おま○こ、おち○ぽ、ち○ぽしゃぶり、けつあな、ぱいずり……

エロい知識ではもうフリーレン様にも負ける気がしません。

フリーレン様が知ったら悔しがるでしょうか？

フリーレン様が、悪いんですよ？早く助けてくれなかったから……

また……会いたいな……

「ふむ、だいぶ大きくなったわね。
母体の魔力もうまく吸収しているみたい。」

ギク

ポテッ……

グク……

フク

フク

んん……

ギク

ビク

グク……



「母乳の出も良好。もどから胸もおおきかったし、
たくさん絞り取れそうね。」



ググッ

グ
ニョ
♡

ポテッ……

プ
ニョ

グ
ニョ

ビ
ニョ

グ
ニョ

グ
ニョ

♡
↑

♡
↑

「そろそろ生まれてもいい頃だけど…
ふむ、すこしだけ外部刺激を加えてみましょうか」

ポテッ…

ビクッ

カキョ♡

ガキョ♡

ガキョ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

「うんうん、予想通り素晴らしい個体だね。
やはり苗床が優秀だと子も出来がいいわね。
ええと、たしかフェルンと聞いたかしら？
すこし顔を見せてちょうだい。」



















































































































































































